

【大学スポーツによる地域貢献】

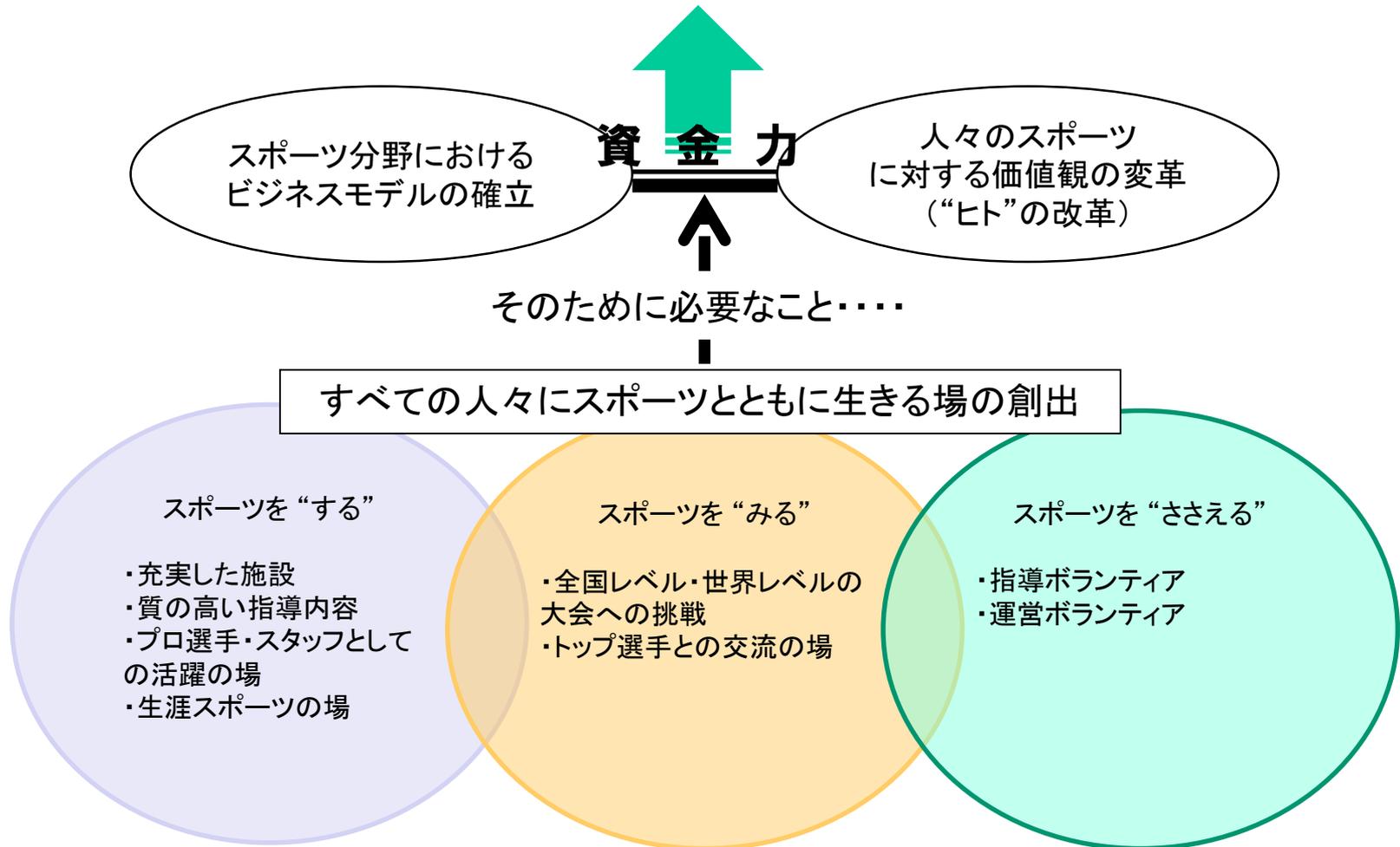
ワセダクラブ 課題と新たなチャレンジ

2015年7月

NPO法人 WASEDA CLUB

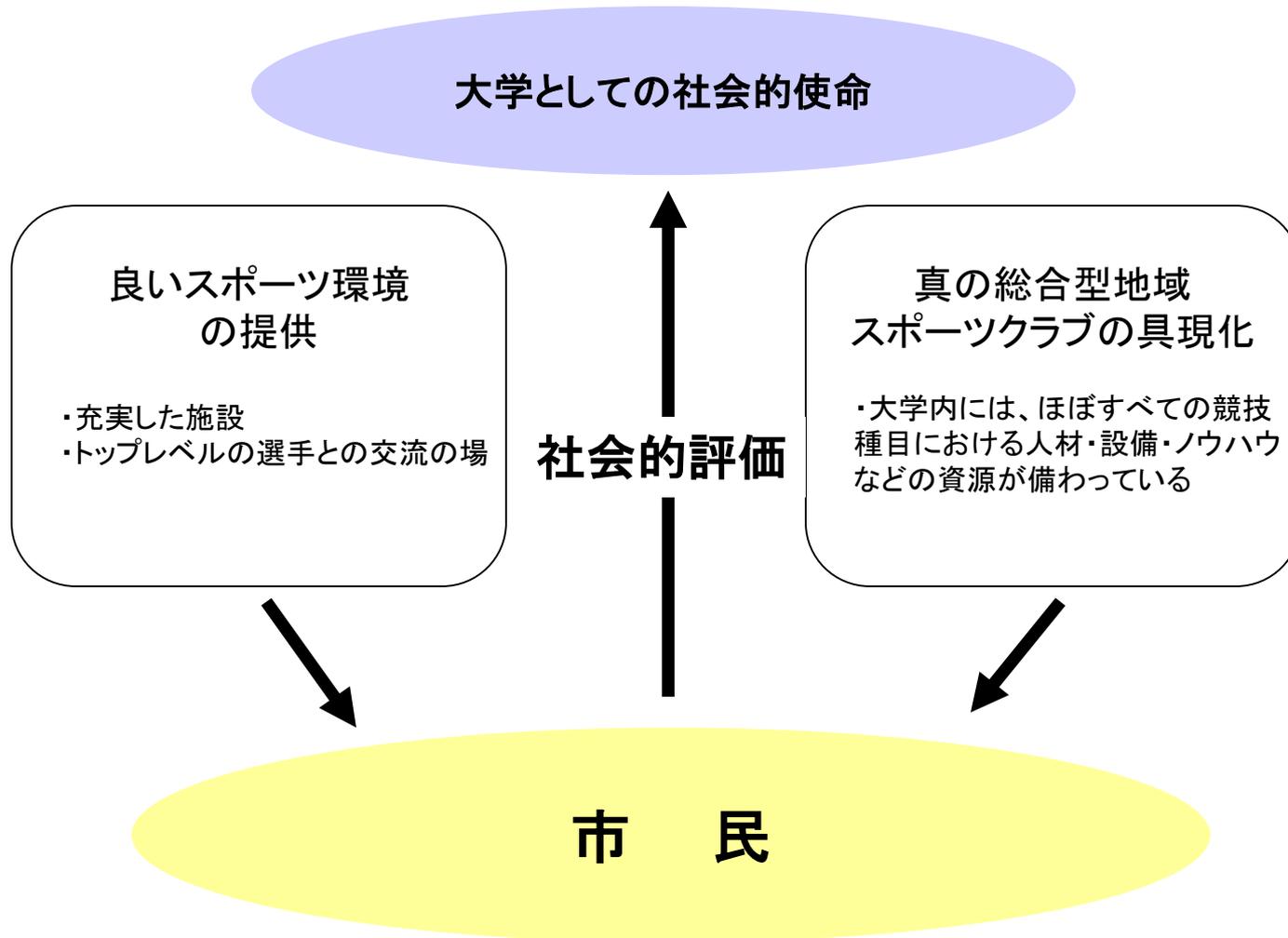
ワセダクラブの基本コンセプト

【日本のスポーツ改革】



ワセダクラブの意義

～なぜ大学を母体とするのか～



体育各部がクラブに参画する意義

◎ 大学スポーツの問題

⇒ 増大する強化維持費用の捻出

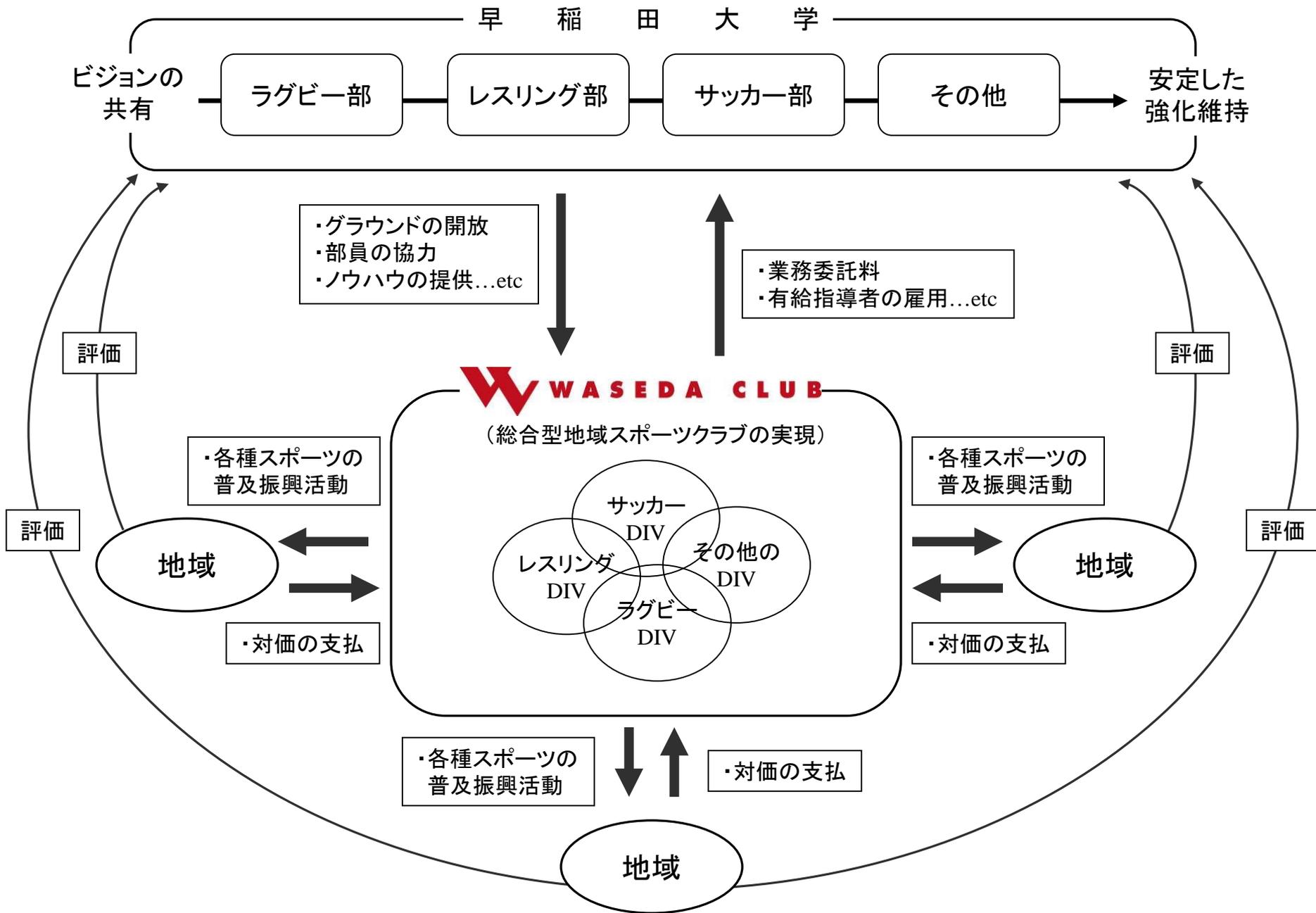
◎ 日本のスポーツ界の問題

⇒ 特にマイナースポーツにおける競技継続環境悪化の
歯止め

総合型地域スポーツクラブの設立により、大学体育各部と民間・地域との有機的な融合をはかる

日本のスポーツを取り巻く環境 ⇒ これらの課題克服 = 社会的ニーズ

- ・企業スポーツの衰退
- ・学校部活動の衰退
- ・子どもたちの体力低下
- ・不登校／引きこもり
- ・医療費の増大
- ・精神疾患の増加



ワセダクラブの成果

☆ 成果：各種スポーツのスクール事業に対する一定の評価

⇒ 全17種目／会員数約2,000名（平成27年7月現在）

● ワセダクラブのどこが評価されているのか？

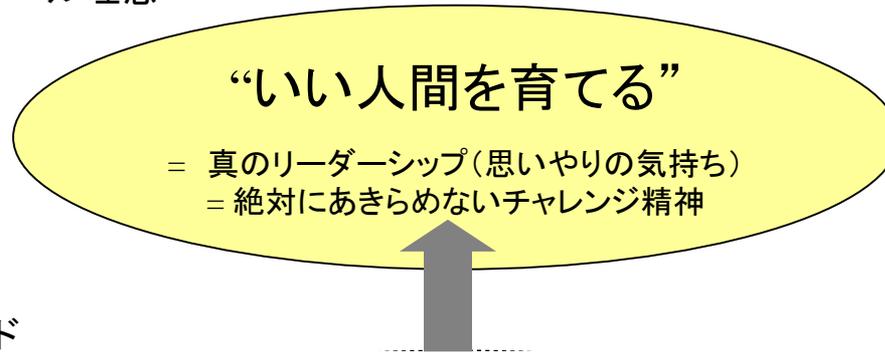
入会初期：早稲田大学（WASEDA）のブランド力
設備面ほかでの好環境（芝生のグラウンド等）
技術面に対しての高い期待（早大OBによる指導等）



入会后期：子どもの人間的成長に対しての好影響
学校では得ることができない体験

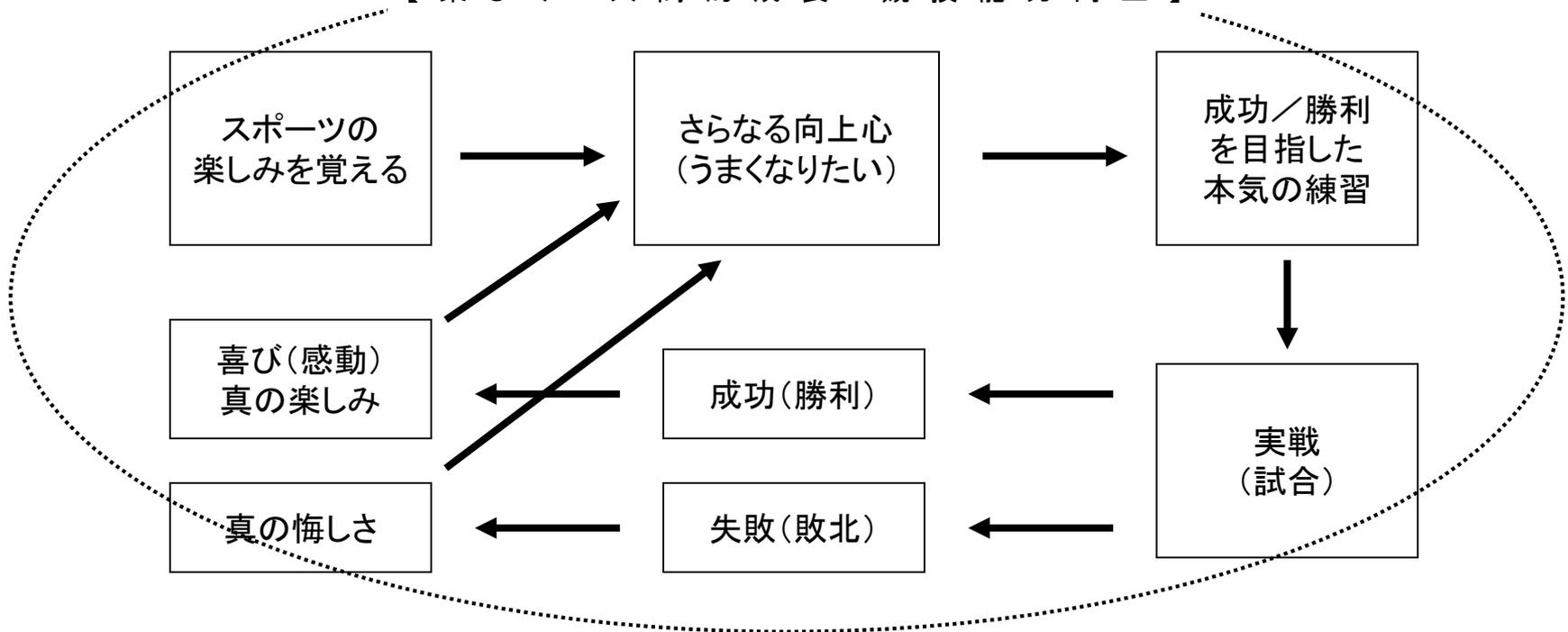
スポーツが持つ教育的価値

■ ワセダクラブのスクール理念



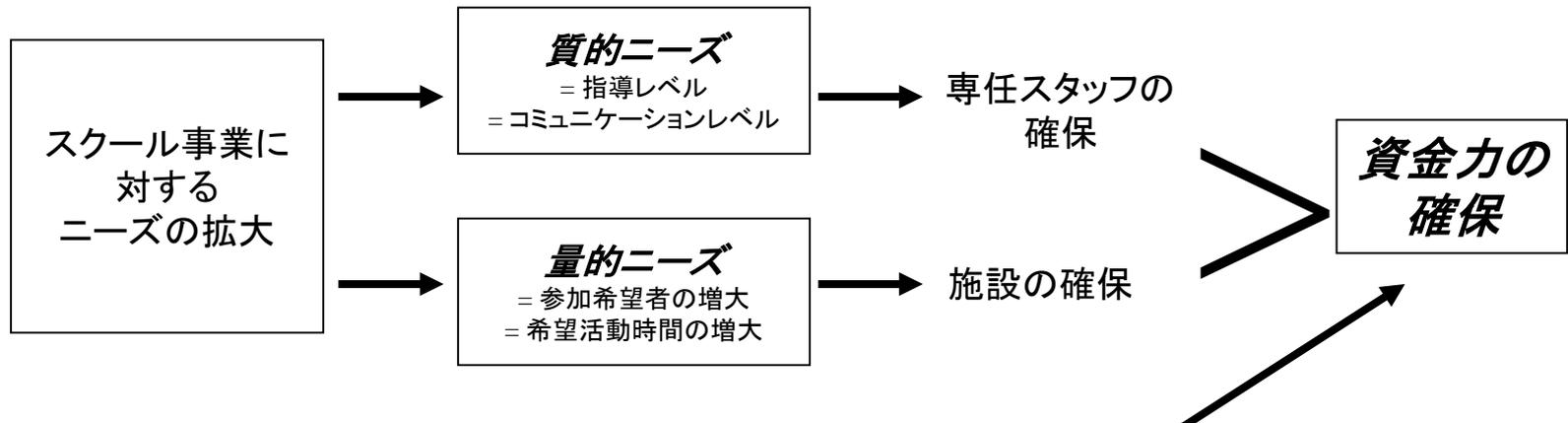
■ ワセダクラブメソッド

【 楽しみ・人間的成長・競技能力向上 】



ワセダクラブの課題

1. 量的／質的ニーズの担保



2. の課題を克服することが、
1. の課題克服に繋がっていく

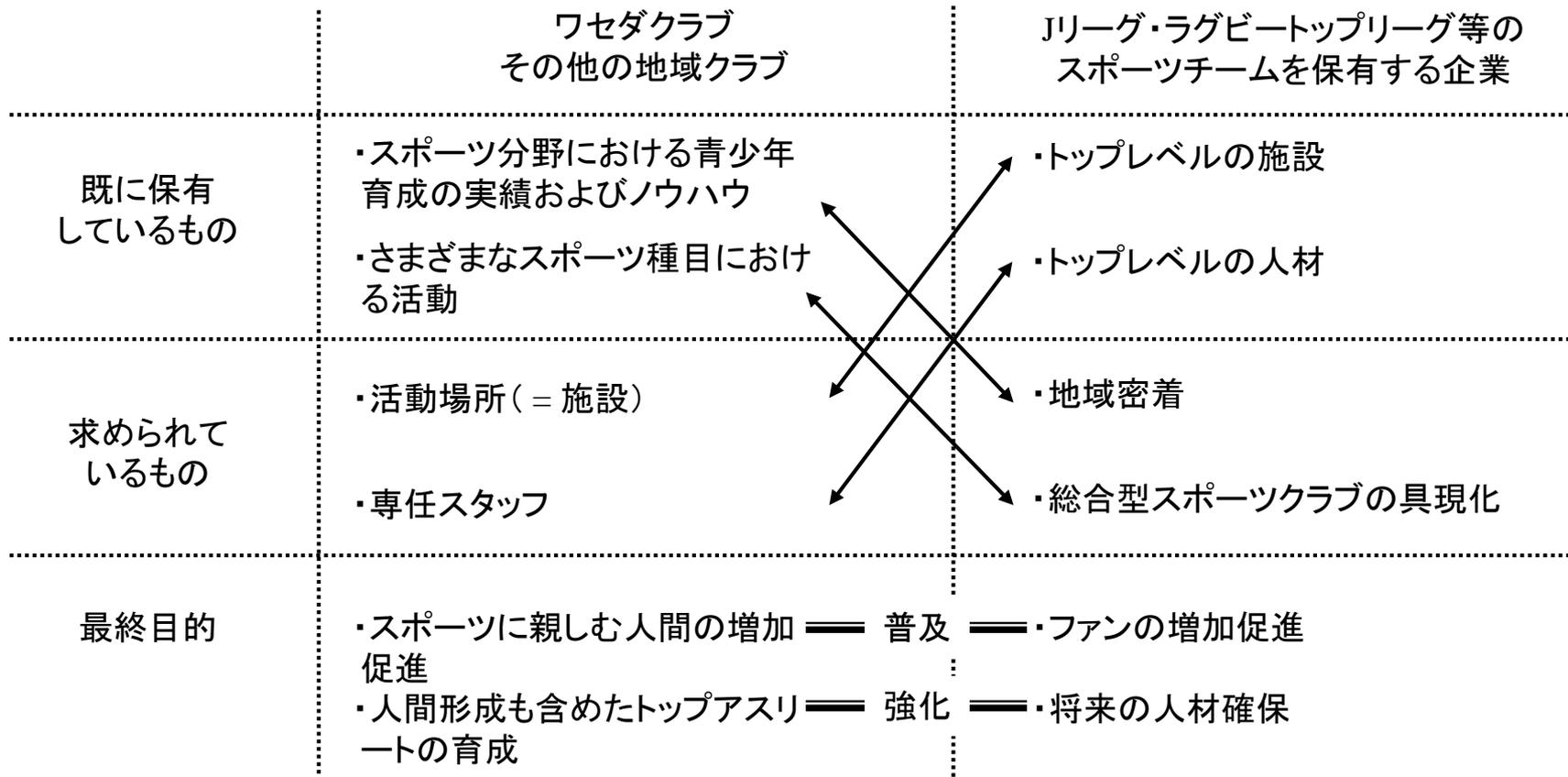
2. 大学内運動部間でのコンセンサス獲得

⇒ 社会に対して強い訴求力を発信していくためには、大学内運動部全体のコンセンサスが必要不可欠

But: 伝統ある運動部ほど、足並みをそろえることが困難

資金力確保に向けての展望

1. 大学が保有するブランド力の活用
2. 産官民による資金負担の分散化
3. 他団体との協働



課題克服に向けたワセダクラブのチャレンジ

- ① Waseda Sports Official Partner Shop 設立
⇒ 大学が保有するブランド力の活用

- ② ワセダクラブ接骨院・鍼灸マッサージ院 設立
⇒ 産官民による資金負担の分散化

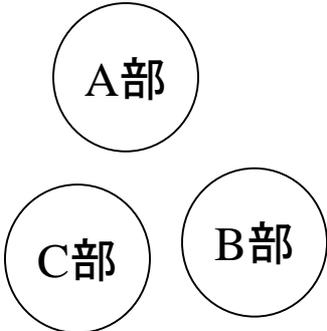
チャレンジ① ～Waseda Sports Official Partner Shop～

◎ Waseda Sports Official Partner Shop

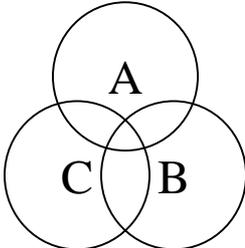
- 事業内容: 早稲田大学のオフィシャルパートナーであるアディダス・ジャパン(株)との提携により、大学内で展開する日本で初めてのスポーツショップ。早稲田大学のロゴが入ったアディダス商品を多数揃えているほか、早稲田大学のロゴ入りチームウェア(アディダス製)を揃えることができる。SHOPの運営は、ワセダクラブが行う。
- 目的: 大学スポーツ再興のために、各種学内スポーツの情報発信拠点となることを目指す。また、早稲田スポーツのブランド価値を高め、応援グッズや早稲田オリジナル商品などの拡販に努め、その収益の一部を大学スポーツに還元していく仕組みを構築していく。
- 本事業の意義:
 - ① 在校生／OBの早稲田大学に対するロイヤリティ(帰属意識)向上
 - ② 大学スポーツ強化への貢献(間接的な強化費支援)
 - ③ 大学スポーツ再興への貢献
- 課題:
 - ・ 大学関係者(一般学生／全国のOB)に対するPR不足
 - ・ 大学内運動部間の連携不足

大学が持つブランド力

早大体育各部単体としてのブランド力



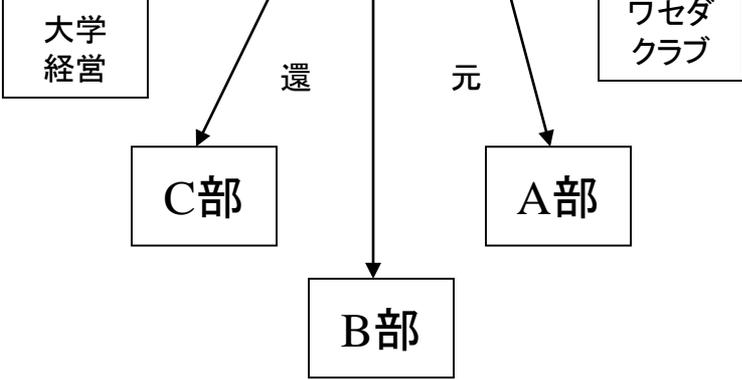
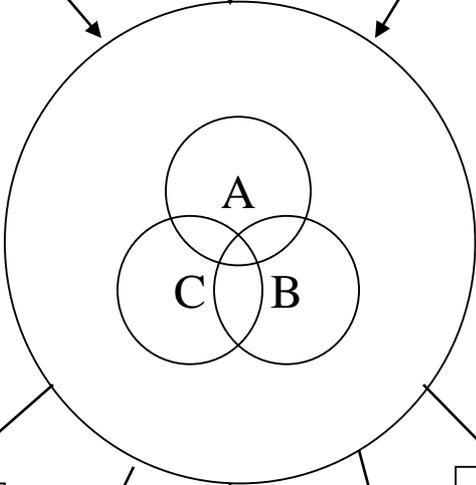
一致することにより、ブランド力が増大



早稲田大学本体としてのブランド力



promotion



チャレンジ② ～ワセダクラブ接骨院・鍼灸マッサージ院～

◎ ワセダクラブ接骨院・鍼灸マッサージ院

- 事業内容:「接骨院」「鍼灸マッサージ院」「コンディショニンググループ」を集約し、健康保険での治療(適応疾患)と、自由診療を行うことにより、受傷から治療、リハビリ、復帰、予防まで一貫したサポートを提供していく。
- 目的:ワセダクラブの目的の一つでもある、「すべての市民を対象とした各種スポーツの普及・振興事業を行っていく中で、青少年の健全育成、市民の健康増進及び地域コミュニティの活性化を図り、広く公益に貢献することを目的とする。」という観点から、医療健康分野でのサービス、普及に従事する。スポーツ愛好家をはじめ、老若男女、地域の住民に怪我や病気の治療だけでなく、予防するための運動指導や、栄養指導等の医療健康サポートサービスを提供し、地域に貢献していくことを目的とする。
- 本事業の意義:
 - ① 地域住民の健康増進ニーズに対する貢献
 - ② スポーツ医科学専門分野の学生たちの受入
 - ③ 大学スポーツ強化への貢献(間接的な強化費支援)
- 課題:
 - ・ 早大スポーツ科学部とのさらなる連携体制構築
 - ・ 大学内(Ex: 体育各部)に対するPR不足
 - ・ 一般市民にとっての敷居の高さ

課題克服のための必須項目

◎ “日本のスポーツ改革”実現のための必須項目

⇒ 『資金力の確保』

…そのための施策

